

## む す び

斜陽産業といわれる農業産業の将来はどんなものでしょうか。

現在わが国を含めて先進国では穀類が余っており、わが国では水田の減反となって農家の方々に不満の色があるような状況です。それにつれて関連産業の農機具メーカーの地方の有力業者が2、3件倒産をしました。農業業界も恐らく影響を受けずにはおられまいと思います。しかし将来を考えてみますと決して悲観することはないと思います。

世界人口はパソコントロールができないと、ここ20年30年先には2倍の70億以上に達するといわれております。その頃には食糧の不足するのが目に見えております。水産、畜産は早いテンポで増産することは不可能でありますので農作物に頼らざるを得ないのではないのでしょうか。増産、増産と戦後の時代と同じような時が来ることでしょう。農業もそれにつれて生産のカーブは上昇すると考えてよさそうです。ただ農薬の内容がいままでと同様であれば農薬公害の倍増と嬉しからざる事態を引起こすことになります。従って農薬の研究開発はどういう方向に向うべきか考えなければならないことです。

農薬はすべて人畜無害になることが望ましくまた当然のことです。それでは農薬のうち殺菌剤を除いて表題に関係のある虫鳥獣について浅識の私ではあります

が、簡単に意見を申し上げます。

害虫をはじめに述べたように、性的誘引物質の開発が最良の農業を生むこととなります。

虫、鳥、獣を通じていえば不妊剤の研究完成が必要にしてかつ最良であると思います。嗅覚にうったえる揮発性物質の不妊薬も決して夢ではないと思います。

つぎには毒性のない植物より抽出する殺虫剤も可能性ががあります。DDT、BHCよりは効力が少なくとも虫に耐性ができて効かなくなるよりましだし、第一公害がないのがよいことです。中国で研究しているのではないかと思います。

動物に対する忌避剤も無公害の立場からみて大いに検討すべきでしょう。

さらに大げさにいえば、人類に対する最大の害敵ともいうべき鼠については誘引性のある殺鼠剤、特にクマリン系のように死骸が明るいところで見つかるような即効性のある殺鼠剤が開発されるべきだと考えます。他の点でいかに優れていても屋根裏とか倉庫の隅で死んで蛆がぞろぞろ出てくるのを見ると背筋がぞっとするものです。

今後は分子生物学の飛躍的な発展が期待されていますが、動物の染色体に直接作用して、不妊か死産あるいは生きても短時日に死ぬような薬品がでてくるかもしれません。最後に画期的な農業の出現で近き将来に来る食糧難の時代を人類が切り抜けられるように期待して筆を置きます。

## 熊 本 営 業 所

### 新 築 移 転 の お 知 ら せ

九州地方のお得意様に、より迅速なサービスの出来ましようかねてより建設を進めておりました、熊本営業所ならびに種子発送センターが先頃落成いたし、業務を開始いたしました。

新営業所は熊本市郊外の植木町鑑田字出口、国道上に面し、各地への配送にも交通至便のところにあります。種子倉庫は現地の実状に即応した耐暑耐火性の建物で、これから増大する耐暑性暖地牧草や高原ならびに各地秋播に活用される北方型寒地牧草など、各種の牧草、飼料作物種子をはじめ芝生、特産野菜種子など皆様のご要望にお応えできる優秀な品質の種子を用意いたしておりますので、旧倍のご利用ご愛顧をいただきますようお願い

申し上げます。

電話 熊本 09627 (2)-1366 所長 松井 秀夫

